

# まなびの森



廿日市市立吉和小・中学校 校長通信

【第7号】R4.11.28

校長 戸崎志乃婦

## 視点をもつと見え方が広がる

今年度も無事に修学旅行が実施できました。毎年修学旅行を引率して感じることは、たった3日でもみるみる成長する生徒の力です。やはり体験を通して学ぶことが生きる力に直結するのだと実感します。今回の旅程では、公共交通機関を使う頻度がいつもの年より高く、生徒がどのくらい自分達で動けるのかと、様子を観察していました。

1日目に私から話しかけた言葉には、ほぼ「？」の反応。「新幹線はどのホームから乗りますか。」「？」「何時発でのぞみ何号ですか。」「？」「自分の座席番号を探して乗ってください。」「？」…事前学習で確かにしおりに書いてあったはずですが、それが何にどう役立つものかという視点はほぼありませんでした。「とりあえずついて行けば…」という感じ。在来線の車内のアナウンスにも無反応。「次はどこ？ どこで降りる？」「え？ 聞いていませんでした。」…そこで、一つ提案をしてみました。「USJからホテル前までの公共交通機関は、自分の目で見て、探して確かめて乗ってみよう。」USJ内でたっぷり楽しんだ後で、かなり疲れは見られましたが、USJからの道中は、生徒がどんどん乗り場を見つけ確認して乗車しました。

2日目の班別自主研修も路線図を片手に、残り



時間を計算し、話し合っ、行動を決めていきました。**何のためにどんなことが**



**必要か視点をもった上で、経験すれば見えてきますし、意味がわかってきます。**「なるほど、それを見つけながら行けばいいの。」「それでこんな表示が出してあるの。」「あ、ここにもわかりやすいように説明がしてある。」「さすが、観光の街、京都。」「観光客に興味をもってもらうための工夫がある。」「吉和にも参考にできるかもしれない。」

修学旅行は、総合的な学習の時間にもキャリア教育にもつながる重要な学校行事の一つですが、「**新たな視点**」をもつことで、生徒達の学びは一気に広がっていきました。自分達でやり切った表情は、なんとも頼もしいもので、次の代を担うのにふさわしい姿になりつつあります。

**新たな視点をもてば、**気付けること、自分事として考えられることも増えてきます。

### 【小学校2年生：生活科（まちたんけん）】

吉和支所や市民センター、福祉センター、郵便局等でインタビューをしました。「行ったことはあるけど、どんなことをしているのかな。」一人一役でしっかりとインタビューをして、児童みんなでメモをとりました。

**まず、吉和ので働いておられる身近な人から学ぶことで、働く方々への視点を持ち、人のために役立つことや働くことの大切さに気付くこと**でしょう。



### 【中学校3年生：社会科（公民的分野）】

地方自治の学習として、「廿日市市の課題への政策提案」を考えました。普段の生活から政治に関心をもつことは、中学生ではなかなか難しいです。しかし、**自分達で政策を作り、「子ども議会」のDVDを見て考えることを通して、市民としての視点をもって学びを深めました。**それは、やがて大人になって、自分達の生活をよりよくしていく視点につながっていきますね。